

第4回検討会議における議論のポイント

スマイルビル（跡地活用を含む）再生に向けた視点

- ・地区全体の活性化を視野に入れた際には、行政がかなりパワーを注いで活動を展開していくことが活性化事業としては必要になる。
- ・新たな活動を生み出すために、インキュベーション的な機能を入れ込むことが提案の一つになる。また、日常的な生活利便性を支える機能を入れ込むことが狙いにある。
- ・底地には非常に魅力を感じるので、解体して文化・教育に集約しコンパクトな施設に転換していくことが遠い将来においては必要になると思われる。
- ・たきかわホールが駅前にあることが非常に意味のあることだが、その中間に空いた商業床があることでホールの使い勝手が悪くなってしまっている。
- ・ホールの発端は北見の小劇場スタイルから来ている。年に2～3回、古いフィルムを回すとお年寄り層の集客が非常にある。たきかわホールが集客を担っていく可能性はある。
- ・文化センターや青少年科学館、美術館等、滝川のような規模の都市で、これらの施設を持っているのは珍しい。施設の老朽化も鑑み、これらを集約する可能性も考えられる。
- ・公共施設利活用という視点から、機能全てを移転するのではなく、情報発信機能等の機能の一旦は担い続ける、エコミュージアム的な発想はできるかもしれない。
- ・スマイルビルがスマイルビルたるが故に成立してきた機能や役割を見直す意味も含めて実験事業を考えるべき。アンケートでは、イオンのようなモノがほしいの声があるが、これは商業施設ではなく、滞留・交流・時間消費の場がほしいということを示している。
- ・更地にするとすべての空間が壊れてしまう。そうではなく、市が保有する施設になるということを活かして実験を展開すべきだろうと思っている。
- ・再再開発のテーマは、何かを固めなければならないと思っている。また、暫定利用という話をすると、「何故？」という話になってしまう。
- ・委員会の中で、スマイルビルを壊すという答えを出すのは非常にドラスティックなものだろう。今までの議論とは全く異なっているし、この内容は突き進めるべきではないか。
- ・スクラップして再開発をするなら、やはり駅と一体でやった方が絶対いい。

スマイルビル管理・運営体制について

- ・新しい会社については3セクになるのか、既存の振興公社、管理・運営も視野にいれて、空知文化工房も選択肢に入れた中で検討を進めたい。
- ・利用を想定した中で、その会社に汗をかいてもらうし、滝川市も実験の場に対しては財政の許す範囲内ではともに汗をかいて次の方向性を見出していきたい。
- ・母体となるのは現行の候補もあるだろうが、任せきりでは難しい。外からの人材を招き入れて一緒に内容を考えていく仕組みを行政が支援していかなければならないだろう。

JR滝川駅 駅前広場整備とスマイルビルの関係性について

- ・自治体が駅舎建設に非常に熱意があって、資金提供可能であれば、JRと共同して駅舎を含めての整備ということも考えられる。もちろん、公共施設を駅中に入れる、あるいは自由通路を挟んで駅と公共施設が合体するといった手法も視野に入れておかなければならない。

- ・ 中心市街地全体を考えた中で、この場を位置付けていく必要がある。一番取っ掛かりとして、駅前と駅周辺と地域を含めた形で、どうすべきかを考えていくことではないか。
- ・ 今の敷地面積が巨大なので、地型を変えるという話も起こりうる。広場を大きくするというのもあって、もう少し拡張すれば、当然、イベント広場になる。
- ・ 都市計画決定を打つと、設計はそう簡単に変えられない。そこは都市計画部と経済部で本当に議論してほしい。場合によっては市長を交えてやった方がいいかもしれない。

活性化協議会へのアンケートについて

- ・ 活性協のアンケートだが、これをいいように受け取れば、建て替えを視野に入れて考える意見を持っている方もいると受け取れる。
- ・ あまり意見が集まらなかったという状況を課題にしていくこともある。スマイルビル活用の方向性を最初から決めてしまうのではなくて、あそこの中で実験をしながら、みなさんの意見を醸成していくというやり方が一つあるのではないか。